

## 平成 27 年度第 1 回博物館構想会議概要

- 1 日 時 平成 27 年 6 月 1 日 (月) 10:00~12:00
- 2 場 所 生涯学習センターけやき 4 階 第 2 会議室
- 3 出席者 委 員：矢島委員長、相澤副委員長、井上委員、石原委員、吉良委員、  
鳥居委員、中村委員  
職 員：栢沼教育長、諸星文化部長、杉崎文化部副部長、安藤文化部副  
部長、古矢図書館長、諏訪間城址公園担当課長、野村サービス  
係長、鳥居主事、鈴木主事  
坂井主事、大貫主事、大木主査、堀田指導主事、三上主査、大  
川主査、三浦主査、小林主査  
事務局：友部生涯学習課長、湯浅尊徳記念館担当副課長、岡郷土文化館係  
長、茂木主任、中村主事

### 4 概要

#### 教育長挨拶

栢沼教育長より挨拶があった。

#### 協議事項

(1) 本市にふさわしい博物館のあり方について

##### ① 答申構成について

- 【井上委員】 最初に博物館整備の背景とあり、既存施設の話がでていますが、最後にも既存施設のことが出てきて重複する。この住み分けはどのように考えているか。
- 【友部生涯学習課長】 背景については課題、既存施設については課題をクリアしどのような方向性を持つべきかということになるかと思う。
- 【矢島委員長】 中核館が整備された後、どのようになるかということか。
- 【友部生涯学習課長】 それがメインになると思う
- 【中村委員】 今回、構成案を固めるということか。それとも議論するためのたたき台と考えればよいか。
- 【友部生涯学習課長】 キーワードをご確認をいただきたい。それを次回以降、肉付けして、資料 2 のような形でお示ししたい。
- 【鳥居委員】 キーワードだけだと意見の言いようがない。それをどのような視点で文章化するかで全く違ってしまふ。これでよいかといわれても、お答えのしようがない。
- 【中村委員】 議論の中で、これから変えてもよいという考えでよいか。
- 【友部生涯学習課長】 もちろんである。以前、たたき台としてご提案いただいた、平成 25 年度の報告会資料が基になっている。

- 【中村委員】 まちじゅうをつなぐ拠点という言葉が出てきても、イメージがしづらい。
- 【友部生涯学習課長】 その言葉をそのまま使うわけではない。変えていただいても構わない。まちじゅうの資源をつなぐ拠点としての機能があると思われるので、言葉として出させていただいた。
- 【鳥居委員】 章ごとに作っていき、最後に整合性を見るというやり方もある。いっぺんにやろうとして前に進まないという印象を受ける。
- 【中村委員】 柱がないと考えづらいのでよいのではないか。
- 【鳥居委員】 キーワードは構想を作る前段なので、事務局が作っても一向に構わないと思う。
- 言葉として出た中で、8でもう一度出てくるので、収まりが悪い。諸課題については未整理の問題が残るのだと思うが、決まっていないことを構想に盛り込むのは望ましくない。既存施設については収めるならどう連携をとるかということになるかと思うので、「博物館建設に向けて」というタイトルはそぐわない。
- 【友部生涯学習課長】 まさにそういう議論をしていただきたい。
- 【鳥居委員】 文章でつくられていれば、問題点がすぐにわかる。これでは事務局がどうしているのかが分からない。
- 【吉良委員】 背景のあとにこういうことをやるというコンセプトを言わなければならないと思う。極端なことを言えば、郷土文化館は廃止されるとか、施設の統廃合があるとか、そういうことが入らないと、構造がみえない。8が問題であると思う。現代美術、自然資料、公文書の扱いをしっかりと書かないと、ごまかしになる。
- 【中村委員】 背景で課題を考えていくので、8は1の中に入れるべきではないか。
- 【友部生涯学習課長】 事務局としては年度末の答申までにどこまで課題を整理できるかという懸念があったため、課題が課題として残るような形になってしまっていた。可能な限り明確にのべられることは文章化したいが、どうしても残ってしまうものはあると思う。
- 【諸星文化部長】 構想を策定しても残ってしまうということではなく、むしろ中核館のなかで取り扱わない可能性があるものを最後にまとめている。体系としてその中になければならないという指摘は受け止めるが、公文書、現代美術、自然科学をここに出している理由は、中核館の機能を整理していく中ではみ出していくものをここに挙げているというのが、事務局なりの整理である。
- 【鳥居委員】 考慮すべき項目としてどこかに収まるか、市として解決したいという方向性があるならば、基本構想の中で反映させる努力をすべきである。どうにも収まらないということならば無理があるので、外すということではない

か。

- 【相澤副委員長】 構想と銘打った場合、これは課題であるので、構想の中に課題が入るかなというはあると思う。ただ、中村委員がいわれるように、問題があってこれを出していくのであれば背景に含めればよいのではないか。
- 【井上委員】 小田原ではこれまで図書館が中核的役割を果たしてきたが、郷土文化館という博物館が実際にはある。大きくとらえると、郷土文化館が今のままではいけないので、一度あれをなくしてしまって、博物館を整備するということと理解している。図書館はまた機能が違うが、博物館的な機能としては、天守閣、文学館があり、郷土文化館に分館として松永記念館がある。観光的な意味合いから言っても、既存施設は残るのだと思うが、どこがなくなって、どこが残るのかを最初に書いておかないと、そのあとの位置づけが決まらないのではないか。背景と8はまとめたほうがよい。また、8に郷土文化館があるのも違和感があるので、そこをどうするのかを明確に打ち出した方がよい。そのうえでお城は観光でやる、文学館は西海子で取得した土地で拡大していき、文学はそこで担うという方向性がある。とすれば、残ったものの中でどれだけ博物館ができるかという前提をやらないと、中の性格ができていかないので、最初に大枠は入れるべきと思う。8のところは分散してしまったものがどう連携するかということを残すのはよいのだが、最初に前提条件を打ち出した方がいいかなと。とすると博物館整備の背景というタイトルではなく、キーワードとしては別なものの方がよい。
- 【矢島委員長】 今の議論を聴いていて、8は表題と中身が整合しないところがあるので、そこは整理をするか、整備の背景というなかで、現状にある課題を解決しようとしているという中で1をまとめていけば今の議論がすっきりと収まると思う。残る課題があるとしても、こういう方向性でやりたいと。課題として挙げられているもので、諸課題としてという部分と、既存施設についてというところは3-1-③博物館の基本的な性格をどうしていくのかという議論の中で、公文書、現代美術、自然科学については扱わないという風に書けばよいのではないか。歴史、考古、民俗を主体としたある種総合的な人文系博物館であるという位置づけをきちんとすることによって、直接これらを博物館が扱うという議論にはならないのではないか。ただ、公文書の扱いについてどのような課題が残るか、書いておく必要はある。既存の施設その他に関しては、中核館としての位置づけというのが、他との連携を前提とするから中核館であるのであって、具体的にどのような連携をするのかを書いておけば、改めて文章として書くこともなくなると思う。とすると、8は全体的にほぼいらなくなるのではないかと思うがいかがか。

- 【石原委員】 8の公文書のことについて、前回も申しあげたが博物館構想の中で市の公文書管理全体のことを言うのは難しい。資料に私の発言がそのまま書いてあるが、公文書管理条例にしる、現用と非現用を一体的に管理するにせよ、博物館構想とはかなり異質なものになる。博物館構想の中にどのように書くかはこれから検討すべきことだが、今委員長がおっしゃったように、まずこの構想の中で対象とするのかしないのかということと、しないのであればどういうところに託すというようなことを、後の構想について明示することが必要ではないか。鳥居委員が以前、アーカイブのことを博物館構想の中でやるというのはかなり無理があると言われていたが、私も同感で、これまでのご説明をうかがっていても、市がどれだけ本腰をいれて公文書管理をやるかということに若干危惧がある。アーカイブズの場合は、メインから外す方が賢明ではないか。
- 【鳥居委員】 課題の洗い出しや解決の方向性が充分検討されないまま、庁内で構想が始まってしまっているのではないか。公文書をどうしたいのか、温度湿度の管理などはうまくいっているかなど、基本的なところも課題として挙がっていない。石原委員が公文書と博物館の住み分けは難しいと言われたが、整理された公文書を展示や情報の公開ということでは活用できる。公文書は博物館構想と合わないからやめてしまおうではなく、ではどういう活用の仕方ができるのかということを考えるのが、この構想であると思う。繰り返しになるが、課題の洗い出しをしっかりとしないと役に立つ基本構想にならない。
- 【相澤副委員長】 言葉としてしっかりこないというところで、「まちじゅうをつなぐ拠点」というところが気になる。まちというのはどこを指すのか、なぜつなぐのかというところがあるので、言葉自体考えたほうがよい。
- 【鳥居委員】 表題の展示・情報発信は、これを一緒にくくるのは違和感がある。それぞれの表題を説明する文章を作る作業を併せて行えば、表題と文章の内容が整合しにくいことがわかるのではないか。細かくみると、博物館の組織の中に、いきなり職員があり、次に外部組織がある。これはこの委員会のようなものことかもしれないが、ちょっと意味が解らない。
- 【中村委員】 資料1と2を見て内容を考えればよいので、具体的な議論はそこでよいのではないか。
- 【矢島委員長】 ①については意見が出たものと思うので、次に移る。

#### ②答申第1章第2章第3章の内容について

- 【矢島委員長】 ②答申第1章第2章第3章の内容について事務局から説明をお願いします。
- 【友部生涯学習課長】 ②答申第1章第2章第3章の内容についてご説明させていただきます。

お手元の資料 2 をご覧いただきたい。

こちらは、前回の会議で平成 25 年度の庁内検討委員会の検討成果報告書を文章化したものをお示しさせていただいたが、その際に皆様からいただいたご意見を踏まえ、改めて庁内で検討を加えたものになる。皆様からいただいたご意見をどのように答申の形にしていくか、答申の第 1 章から第 3 章までについて、文章化ではなく要旨を書き出し、対照表のような形にしたものになる。

まず、整備の必要性の背景となる課題について整理する意味合いから、本市の資料や施設の現状、課題等については第 1 章で整理してまいりたい。

「2 博物館整備の目的」では、その目的を 4 つに整理した。

「(1) 市民の学習の拠点として」では、前回委員の皆様から市民の学習について多くのご意見をいただいたことから、市民の学習支援や博物館を通して市民が地域づくりに参加するといった、市民の利用を目的としたことについて整理した。

「(2) 歴史文化の発信の拠点」では、博物館には観光のガイダンス機能も必要というご意見が前回あったことから、市民への情報発信に加え、市外や小田原を訪れた観光客への情報発信について整理した。

「(3) 文化財の収集・保存・活用の拠点を目指して」では、本市の施設で所蔵する資料について活用が進んでいないというご指摘を前回いただいたことから、地域資源の保存や整理、その活用について整理した。

「(4) まちじゅうをつなぐ拠点」では、これまでも博物館を通じた地域資源の体系化については触れられてきたが、庁内検討委員会ではそれをここで改めて見つめ直し、より強く打ち出すべき、ということになったことから、新たに節を設け、地域資源のつながり、人の回遊促進について整理したい。

「3 博物館の性格」では、前回同様、館の基本的な性格と、他の施設等との関係性から生じる中核館としての性格の 2 節に分けて整理していきたい。

「(1) 博物館の基本的性格」では、「①対象地域」と「②基本的性格」に分け、より広い視野から対象地域をとらえる必要もあるというご意見を前回いただいたことから、①ではあくまで基本は小田原市域を主体としながら、県西地域、さらには全国、世界も視野に入れるという構造で整理していきたい。

②では他の施設との役割分担や資料の取り扱いについても未整理な部分があるため、平成 5 年度の構想より継続されている歴史・考古・民俗の

三分野を主たる構成とし、前回のご意見どおり「人文系」という形で整理させていただきたい。

「(2) 中核館としての性格」については、本市の博物館機能の母館となるという意味合いと、地域資源などをつなげていく拠点という、二重の意味での中核館ということで整理をさせていただきたい。

各節ごとに必要となる視点について足りない面などあるかと思うので、加えたほうがよい視点や別の節で述べたほうが構成としてまとまり易い点など、ご意見をいただきたい。

本日いただいたご意見を基に、事務局で構想案を文章化し、次回皆様にご確認をいただければと思う。

ご説明は以上である。

- 【矢島委員長】 戻っていただいても構わないがひとまず順番で進めたい。まず、博物館整備の背景からいかがか。こちらは現状となっているが、課題ということで理解してよいか。
- 【友部生涯学習課長】 先ほどの議論の中で 8 からこちらに移ることになるので、そこも追記していきたい。
- 【矢島委員長】 さらに言えば、どのような解決の方向性を提案できるかということにも踏み込んでいただくとわかりやすい。
- 【吉良委員】 前の構想が実現しなかった理由の分析を入れなくてよいのか。何が原因だったのかを総括し、今回は実現させるのだという意気込みを伝える必要がある。そうすることが、今やることの意味を理解してもらうことにつながるのではないか。前のことを素通りするのは理解しづらいような気がする。
- 【井上委員】 詳細は分からないが、前の時になぜできなかったと市としては認識しているのか。
- 【諸星文化部長】 私の認識ということで言えば、山橋市長が就任して歴史と文化が香るまちという方向性を打ち出し、小田原の歴史を伝えていこうという施策を展開する中で、博物館の建設が企図された。もちろん課題の解決という面もあったのだが。しかし、志半ばで急逝されてしまい、新たに就任した小澤市長が全く引き継がなかったということではないと思うのだが、新たな行政課題が出る中で、優先順位が下がってしまったということはあると思う。構想自体は正式に児玉幸多委員長から提出されて議会にも配布され、一定の方向性として扱いを受けたはずである。ここは行政の継続性の問題もあると思うが、トップの大きな方針の中で比重をかけるべき施策が変わってしまったことが大きい。課題として認識していなかったわけではなく、長らくつかなかった施設改修の予算がついて改修したこともあったが、博物館の建設には舵を切れなかったということであると思う。

- 【鳥居委員】 矢島委員長は前回の委員会に参加されていると思うが、継続しなかったのか。
- 【矢島委員長】 委員会は答申を出した時点で、解散収束している。当時、具体的に総合計画の中に位置付けていくのはこれからになる、という状態であったと記憶している。
- 【鳥居委員】 政策上の裏付けはなかったのか。
- 【矢島委員長】 100%の裏付けはなかった。
- 【諸星文化部長】 矢島委員長が言われたように、当時の総合計画おだわら 21 プランの前期計画に位置付けがあり、そこで策定された構想をもとに後期計画に位置付けるということで、その手前の状態であった。後期計画に位置付ける前に山橋市長が亡くなられてしまった。
- 【安藤文化部副部長】 新しい市長がかなり計画に手を入れられた。
- 【相澤副委員長】 吉良委員が言われたが、これまでの経緯は入れたほうがよいと思う。博物館構想が今ポツと出たものではないということがわかるように。ただ、今ご説明があったように市側の色々な事情がというよりも、市民の要望が長くあるということを経過の中に中心として入れるとよいのではないか。
- 【中村委員】 各施設の収蔵資料の現状とあるが、郷土文化館が果たしてきた役割があり、市民の要望で生まれたという経緯があるので、今までやってきたけれども、課題が出てきて、それを解消していいものをつくるのだということ、背景としては収蔵資料のことよりもそういったことを入れたほうがよいのではないか。
- 【矢島委員長】 では、2の方に移りたい。ざっと見ると、例えば(2)の市民が学習のための情報をというところでは、学習の拠点のところでも同じような文言がある。どの部分にどういった内容を配置するか、丁寧に見たほうがよい。加えるべき事柄、整理すべき事柄があればご意見いただきたい。
- 【鳥居委員】 今委員長が言われたように、もっと整理しないと何をしたいのかが見えてこない。似たようなことがあちらこちらに書いてある。要約すると市民への学習支援を重点的にやりたい、参加体験的な学習も重点的にやりたい。それから地域文化を学ぶための支援もしたい、大きく分けるとこの3つだと思う。もう少し推敲した資料でないとうっかりにくい。歴史文化の発信の拠点という言葉もわかりづらい。これは歴史や文化の情報発信の拠点ということではないのか。次の文化財の収集・保存・活用の拠点についても、有形無形の文化財を望ましい環境で保存し、というのは博物館としてはずいぶん後ろ向きな書き方である。課題をきちんと洗い出して、それを解決するための構想とした方が市民の支援を得やすいのではないか。
- 【井上委員】 2章で違和感を感じるのは(4)のまちじゅうをつなぐ拠点である。これ

は観光的な面を考慮する中で出てきたのかと思うのだが、観光客がそこに  
行けば小田原のことがわかるという機能であれば、観光案内所を置けばよ  
いと思うし、むしろこの意図からすれば、2 の情報発信、市民だけでなく、  
外部から来た人が小田原の歴史文化に触れるというところだろうと思う  
ので、あえて見出しをつけて書くことではないと思う。ほかの小項目とも  
位置づけが異なるので、なくてもよいのではないかと思う。

【中村委員】用語の問題だが、文化財、文化資産、資料など、重なりそうな用語がある  
が、どのような用語を使うかは大切なので整理した方がよい。また、観光  
については構想の中に書くのは違和感がある。結果として外から来た方が  
見ることはあると思うが、構想に入れるのは望ましくない。

【石原委員】まず用語の定義をされてはどうか。この構想ではどのような意味でその用  
語を用いるかをまず整理してはどうか。また、今回の構想の対象は博物館  
であり、博物館と図書館と公文書館、この3つは親戚のようなものだが、  
ライブラリのは構想の中には出てこないのか。関連施設として触れた  
ほうがよいと思うが。

【相澤副委員長】資料3にある機能・活動と目的との整合もあると思うが、3には児童生徒  
へのアウトリーチが挙げられている。これに対応するものとして、学校教  
育は入れたほうがよい。小学生、中学生、高校生に博物館に来てもらうと  
いうのは大切だと思う。それをどこに入れるかという、2章1節がよい  
のではないか。学校教育を市民という意味に含めて入れるか、どこかに入  
っていた方がよいのではないか。

【矢島委員長】中村委員からご指摘のあった博物館の観光的な面については、この構想全  
体が小田原の観光政策とどうリンクするのかということであると思う。そ  
こを示すのであれば章立てする意味はあると思う。そこは当面視野に入れ  
ないということであれば別だが。これは大切な問題で、近年、博物館が観  
光に引きずられるのではなく、自分たちが観光に関わろうとして動き始め  
ている。そういう覚悟を盛るかどうかということである。そういう積極的  
な位置づけをするかしないかでこの書き方は全く変わる。

【鳥居委員】相澤副委員長が言われたことに関して、前文のような形で目的を書き、そ  
のために次の活動を行う、という書き方もあると思う。

【中村委員】私が申し上げたのは、観光というのは間接的な効果であるので、構想の中  
には積極的に位置づけたくないということからである。だが、多大な予算  
を投じて行う事業であるし、市として強い要望があるなら柱立てすること  
もあると思う。

【鳥居委員】来館者の統計は必要であると思う。市民だけでなく、市外から来た方もこ  
の博物館は楽しめますということを入れることは必要であると思う。実際

の展示でも市外から来た人にも理解できるような、例えば解説文も市外から来た人が理解できるような書き方をするなど。基本構想ではどのような人を対象とするかを定めることは必要であると思う。

【中村委員】 市民がつくる市民の博物館というところは揺るがないのではないかと。市民にとっていい博物館であれば、ほかの人にとってもいい博物館になると思う。

【吉良委員】 児童生徒ということに関連して申し上げる。川崎市市民ミュージアムでは、来館者の多くが生徒である。市民ミュージアムはアクセスの悪いところに作られたが、行政の色々な事情でそうなったにもかかわらず、来館者数の減少を博物館運営のせいにしたという経緯がある。それを学校教育との連携で乗り切っている。子どもたちにどうやって資料を見せていくかということが重要であり、かつては学校教育と社会教育は別だという考えがあったが、時代が変わっている。そのことがここにあまり出ていない。つくってみたが人が入らなかった、博物館のせいだというのは行政はあまりに無責任である。学校教育との連携はかなり考えられた方がよい。

【中村委員】 将来の市民を形成することであるので、市民のための博物館を考えるうえでは、当然考慮されるべきである。将来頑張っていく基本になってほしい。

【吉良委員】 市民という言葉に異議はないが、学校教育をどこかに入れてもらいたい。

【鳥居委員】 博物館の性格のところでのこの博物館の対象をもっと前に出せばよいのではないかと。基本構想の書き方としては、背景があって、それを基にしてどのような博物館をつくりたいかということを書けばよいのではないかと。そこで、例えば学校との連携を重視しますとか。いきなり日頃の活動で困っていることなどが出てきてしまっているのでは。

【中村委員】 学校教育との連携に異議を唱える方はいらっしやらないと思う。観光に関しては意見が分かれると思うし、この後の書き方にも影響を与えるので、議論した方がよいのではないかと。

【鳥居委員】 天守閣の改修に関わっているのだが、天守閣は観光課の所管施設として、観光客を意識した方がよいという発言をしたことがある。観光客を意識するというのは、小田原市の情報をあまり持っていない人が理解できる展示にするということで、また、市内に住む小学生も、まだ十分に小田原の情報を持っていないので、観光客が理解できる内容は、小田原市の小学生が行っても理解できる展示になり、利用しやすいからである。天守閣はそういった方向性を出していると思う。それに対し博物館はもう少し市民に向けた方向性を出して問題ないと思う。ただし知らない土地に行くと博物館に行こうと思う人は多いので、小田原の情報を持っていない人に配慮した展示にする必要はあると思う。

- 【井上委員】 私の意見だが、現実的には入れていった方がよいと思う。私たちがよその土地に行けば、当然観光客としていくことになる。観光という言葉にお金絡んで悪いようなイメージをもつのではなく、市民として小田原を知ってもらいたいという思いに立てば、必要になる。また、現実的に博物館を運営する際には、かなりの割合で観光客が入ることがあると思う。結果的に観光客のためになるということでは、いろいろなことがあとあとあると思うので、はっきりと位置付けてしまえば、観光客にもわかる展示や解説にも結びつくと思う。本音と建て前でやるより、本音があるなら位置づけてしまえばよい。市としては観光的な面というのは考えていると思うので、引きずられるのではなく、はっきりとした主張として持つていくことで展示内容も変わっていくであろうし、観光客に見てほしいということを出した方がよい。入館者は現実的には市民よりも観光客の方が多くなると思う。私は小学校の校長をしているのだが、こういうことを言うとなんだが、現実的に学校は博物館に行く余裕がない。学校教育との連携というのは言葉はわかるのだが、実際にそうはいかないのが学校教育の現場だということを生の声として申し上げたい。そうしたことから、観光客の割合が多いと推測するし、観光を前面に出してもよいと思う。また、観光は悪いことではないというのが個人的な考えである。
- 【鳥居委員】 前面に出しすぎると、松江歴史館、彦根城博物館のように観光客をメインターゲットにした設計、展示になる可能性もある。誰を対象として博物館をつくるのかということは、課題を整理していくとおのずと見えてくると思う。観光を前面に出しすぎると、賑わいのある博物館に見えるかもしれないが、危険な感じもする。
- 【石原委員】 博物館の全くの素人が申しあげるので筋違いかもしれないが、例えばイギリスの大英博物館は日本からの観光ではパッケージツアーのひとつのコースになっている。博物館がパッケージツアーに盛り込まれるということは、観光の目玉になり得るということである。私は公文書館で仕事をしているとき、そういう博物館がうらやましいと思った。学校連携などいろいろ公文書館時代に考えたのだが、観光施設としてやっていけるということは、展示やガイドがよければ来館者数も増えるし、こんな良いことはないのではないかと思う。ちょっと乱暴かもしれないが、外部から見るといつもそのように思えた。
- 【中村委員】 私は観光客にきていただくことと、基本構想に盛り込むことは別だと考えている。観光客を呼び込む方法は、ツアーや情報発信など多々あると思う。外から来た方が小田原を知るために博物館に来ていただくのはよいことで、ぜひそうしてもらいたいと思うが、利用の仕方と基本構想を別に考え

ているということである。

【相澤副委員長】 私は小田原は他の市町村と比べて特殊で、観光客が見込める場所であると思う。例えば、箱根に行く観光客が小田原で休んだという時に、時間があれば博物館に行くというのは考えられることである。やはりそうした部分にも目を向けていかなければならないところも現実的にはあると思う。また、ここで柱立てされている発信の拠点の「発信」とは、小田原を知ってほしいということ、小田原の文化が日本の文化、世界の文化につながっていくというところがあって、発信を考えていくときには身近にあるのは観光客ということだと思う。なにしろ、博物館を活性化していかなければならない。博物館というのは生きているわけなので、つくったら終わりではなく、活性化していくために自ら発信して他者に知ってもらおうというのは原動力になると思う。それをきちっと位置づけたほうがよいのではないかと思う。

また、学校教育のことでは、小中学生と観光客が相反するというのではなく、学校が博物館に生徒を連れていくのは難しく、先生も展示を見てもよくわからないものがあり、バスが入らないといったことなど、一言で連携といっても難しいと思うのだが、それは今までのことで、これからは博物館が働きかけていくのが大切であると思う。現在はホームページ上に先生向けのページを設けている博物館もある。バスが停まれる駐車場を必ずつくるという方法もある。博物館に対しての様々な批判があると思うが、新しい博物館を創るに当たっては、そうした批判に対処していくことが必要であると思う。これは将来的なことだが、考えてもらいたいと思う。話を戻して、やはり観光的要素は意識した方がよいと思う。ただ、基本構想では市民が基本であると思う。

【吉良委員】 英語で言えば来館者は皆 **Visitor** であって、目的が **Sightseeing** であるかどうかは問わなくてよいのではないか。 **Visitor** というとすぐにわかると思うが、いい訳語があれば。また、欧米には学校教育に合わせて展示を変えている学校に対応している博物館もあり、日本でもそうしたことに挑戦してもよい時期に来ていると思う。学校は学校で忙しく、博物館は人が来ないから人寄せをやれ、という貧困な状況が生まれつつあると思う。そう陥らない斬新な小田原方式ができればと思う。

【鳥居委員】 私が勤めている博物館では圧倒的に学校での利用が多い。リピート率で言えば 3 割くらいだが、常に新しい学校の利用がある。学校対応を考えることは必要である。今、指導要領自体が博物館を積極的に利用しようというように改訂されている。博物館でもそれに応える体制をとる必要がある。たとえば指導要領に沿う展示資料はこれですと紹介するなどでもできる。観

光客が来ても十分楽しめるということも重要であるが、基本構想のレベルに書き込むことは抵抗がある

【矢島委員長】 言葉は別として、(1)の市民のための博物館というのが一番大きなところで、学校教育については独立した項目として扱うか、ここで大きく取り上げるかはお考え頂きたい。歴史文化の発信あるいは、歴史文化情報の発信になるかもしれないが、小田原市のみならず市外にも情報発信していく。観光についてはここで整理するか、あるいは(4)の「まちじゅうをつなぐ拠点」で、観光地あるいはまちそのものとどうつなぐか、ここで観光という問題をどう扱うのか。これは文章としてまとめたものを議論した方が簡単であろうと思うので、市の方の考えも含めてまとめていただきたい。Visitorでもよいのだが、大きく言うと culture tourism の流れである。これは世界的にも議論されているし、博物館がより積極的に文化観光を推し進める役割を担うのだという博物館も出てきているし、そうした要素を持ちながらも表に出していない博物館もある。これは最終的な選択の問題である。今回の議論を土台に整理したものを次回議論させていただければよいと思う。

【中村委員】 (4)についてはいろいろ意見が出されたが。

【鳥居委員】 他と比べて項目のレベルが合っていないということと、文章が整理されていないという意見があったので、それらを踏まえて再度検討してもらえばよいのではないか。

【矢島委員長】 以上でよろしいか。では、第3章に移る。  
これは鳥居委員流に言えば基本的な性格があって対象地域や対象資料が出てくるということも言えると思うが、鳥居委員いかがか。

【鳥居委員】 2の博物館整備の目的というのも違和感があるが、これが文章でないのどのようなものができてくるかわからない。これはこういうことを反映させた文章にしようということであろうから。

【吉良委員】 たとえば基本的性格のところ、相模人形芝居などの民俗文化財の伝承とあるが、これは博物館が伝承されてきた何を担うのか。また、小田原城跡や貝塚などはまちじゅうをつなぐ拠点に入ると思ったが、ここに入っている。それは発見されたもののレプリカを展示するという意味なのか、ここがよくわからない。民俗芸能を見せるコーナーがあり、人形を展示するコーナーがありといった、そういうことなのか。

【鳥居委員】 それは基本的な性格ではない。

【吉良委員】 産業についても書かれており、どうなるのか考えてみたが、基本的性格にそぐわない。

【友部生涯学習課長】 ここであげている6項目のうち、5項目は課題になり、最後の歴史民俗考

古というのがそれらを踏まえて、人文系博物館がいいのではないかという  
つくりになっている。おっしゃるように前段 5 つは性格ではなく、性格  
付けるためのものである。

【安藤文化部副部長】 接続詞がないのですべてが切れてしまっているように見えるのは私ども  
の資料のつくり方が悪かった。いま課長が申しあげたように、こういった  
現状があるので、人文系博物館とするという文章を箇条書きに書いたもの  
である。

【中村委員】 最後の歴史考古民俗が基本的なものということで、民俗について、文章中  
に「本市は全国的に歴史都市として知られ」とあり、著名な事項が書かれ  
ているが、どうしても歴史都市という表現をすると、どうしても展示の内  
容が著名な事件や経緯になりがちである。これは文化財の方でも申し上げ  
ているのだが、ごく普通の当り前の人々が様々な産業を営んできた、民俗  
と呼んでもよいのだが、さきほどから市民のためと申し上げたのは、そ  
うした生活は観光客からすれば興味のないことである。うちでもそういう  
ものを作っている、こういう年中行事を行っている、どうしてもそうなる。  
ただ、小田原市の人にとっては、かつての人たちがどう生活したり、  
年中行事をしたり、慰霊をしたり、喜び悲しみ暮らしてきたかということ、  
そういうことを示せる博物館でない、外から来た方にはお城のことや事  
件的なことなどに関心を持たれると思うが、市民に知ってほしい、知らな  
ければならない基本的なことを単なる歴史的な都市ということではなく  
てやっていかないと、歴史考古民俗を主体とした人文系博物館にならない  
と思う。民俗というどうしてもこういう出方をしてしまうのだが、人形  
芝居などは民俗の一部であって、99%は食べものを工夫したり、いろい  
ろな生活の知恵を生み出したりということなので、そういったことをなか  
なか知る場所がない。そういうことを知るのが博物館、資料館であり、ほ  
かのことは歴史館などで見られる。小田原というと、いつもそういったと  
ころに行ってしまうので。民俗も歴史なのだが、狭い意味での歴史事象に  
行ってしまうので、もう少し、市民のかつての暮らしを知っていただくよ  
うな。歴史都市というどうしてもそういうイメージがわからないので、そ  
のように限定しない方がよい。

【鳥居委員】 基本的にある前の 5 つは背景に書いてもよいのではないか。そういった  
ものがありながらきちんと展示施設がなかったという使い方をした方が  
おさまりがよいのではないか。博物館の性格と基本的な部分がもっと前  
にくるべきではないか。これを前に持ってきた方がいい。背景の部分にはこ  
れ以上資料が入らないから新しい施設を作らざるを得ないということし  
か書いていない。

【矢島委員長】 乱暴なことを申し上げれば、こうした課題を明らかにしたうえで、解決の方向性の提示の一つとして、人文系の博物館の整備が必要だということがまず提示され、そのうえで、地域的・歴史的なことがこうであるからこういう広がり分野を対象とした人文系の博物館を立ち上げるのだということを書き、具体的に博物館が担うべき、社会的な役割、目的が次に書かれると、そのためにどのような機能活動があるかという流れになると思う。2と3を整理して入れ替えたほうが整理しやすいと思うがいかがか。

中核館としての性格が、既存施設のネットワークの中心であるというのがきちんと提示されて、そういうものであるからこそ、他分野を含めた観光の拠点にもなり得るのだという展開がやりやすくなるのではないかと。観光のための博物館をつくるわけではないが、観光を拒否するものではないということであったと思うので。きちんとした博物館をつくる、また、既存施設のネットワークの中核となるという構想を整理して提示していくという組み立てになるのではないかと思うのだが。流れは整理し直していただくとして、基本的な性格は歴史考古民俗を主体とした人文系というのは、以前から言われてきたことである。

他にはいかがか。

【中村委員】 郷土文化館が蓄積してきた資料を、整理して継承していくというのを、どこかに入れたほうがよい。

【相澤副委員長】 美術についてだが、4分野ということになると性格が変わることにもなると思うが、歴史の中に当てはめて、歴史展示の中に美術資料を組み入れていくというような工夫は必要と思う。私は現代美術のことを言っているのではなく、歴史展示の中にどこか美術資料からもひもとける要素をもたせていけないかと思う。歴史というと、文献資料というイメージになるだろうか。もう少し仏像や仏画のようなものを。小田原には小田原狩野派や風外などもいる。他に扱う施設もないので、そういう人たちのことも扱ってはどうか。美術館というものとは違うと思うが。神奈川県博のようにギャラリーのようなものを設けると、雰囲気は和むと思う。美術と入れると大げさになるが。

【吉良委員】 近代美術を扱う施設はあるのか。

【矢島委員長】 松永記念館がある種、カテゴリとして美術を扱っている。ただ、これはもともとのコレクションの性格があり、美術なら何でも扱うということにはならないと思う。

【吉良委員】 小田原市立美術館ができる可能性はあるのか。

【相澤副委員長】 歴史の中でよいと思う。例えば小田原の近代を考えると松永安左エ門や茶の文化は挙がると思う。それは松永記念館でやるということであって

も、中核館ということであるからまんべんなくある程度歴史を見ていくということにはなろうかと思う。そういうものが展示できる余裕を持たせて構成ができればと思う。

【吉良委員】 中核館ということの中で、既存施設という言葉があいまいであると思う。ここが明確に意識されていないと、立論から崩れてしまう。一番最初の方で明確にしておいた方がよい。

【鳥居委員】 中核館という言葉がふさわしいかということもある。博物館と図書館や文学館は性格が違う。中核館という言葉はそぐわない。例えば市内にある様々な展示施設のネットワークを作り、その中心となるということであろう。

【石原委員】 先ほども申し上げたが、最初に言葉の定義づけをすればよいのではないか。

【鳥居委員】 それは丁寧だが、そこまで丁寧にしなくてもよい。現状から考えると違和感がある。

【中村委員】 中核館が何の中核になるかを決めておかないと話にならないと思うので、以前にイメージということでいただいた資料に、既存関係施設に郷土文化館、松永記念館、尊徳記念館、図書館、文学館、天守閣と書いてあった。これの中核という意味でよいか。

【友部生涯学習課長】 それもそうなのだが、その外側、産業や観光といったものを含めてということである。

【中村委員】 そこまでのことは構想に入れるのは難しいのではないか。

【吉良委員】 図書館と博物館は違う。

【中村委員】 通常、中核という言葉は類似施設の中心というくらいの意味でしか用いない。そのほかのものを含んだ中核館というのは新しい概念だと思う。

【友部生涯学習課長】 2(4) まちじゅうをつなぐ拠点も、まちじゅうにある様々な地域資源をつなぐための拠点ということを言うために設けている。

【井上委員】 中核という言葉が独り歩きしてしまうと思う。普通には博物館施設の中心というとらえ方をしてしまう。やはり図書館や文学館とは性格が違うので、別の言葉の方がよいのではないか。博物館がすべての役割を負わされるのはどうかと思う。尊徳記念館や松永記念館を繋ぐということならわかるのだが、図書館や観光まで入れると違うような気がする。言葉として説明したうえでも使わない方がよいのではないか。

【中村委員】 最初のイメージを考えると、市の方で希望しているのはそういうものだと思うが。エコミュージアムのコアというか、様々な施設の核ということならイメージできる。先ほど井上委員が言われたように、中核館というと地域にいくつかある博物館の中心という意味で用いている。そこを誤解して

いたが、今のお話では地域や様々な施設を結びつけるネットの核ということだと思う。それをこの構想委員会でつくるのは難しいと思うが。

【鳥居委員】 言葉としてふさわしくないと思う。

【吉良委員】 図書館より博物館が上に来るイメージになってしまうが。

【諸星文化部長】 今回お示ししたもののイメージは、資料と皆さんで議論していただいて、再度我々も確認させていただいたうえで、構想のこれまでの議論に加えて、どこまで反映させていけるかというところが基本になっていると思う。もともと既存施設との役割分担と連携ということがテーマとしてあって、それぞれの施設が抱える課題も含めてご提示したところだが、既存施設以外の地域資源、史跡などの市内に点在しているものをもう少し意識をして、取り込んで、そのネットワークと言うか、その中心的な役割を担う施設として博物館を整備していくべきではないかというところが、我々の出した方向性である。ただ、中核館という言葉がふさわしいかということはあると思うので、検討したい。吉良委員が言われている図書館との関係であるが、図書館が持っている現状の課題を整理したうえであれば、私どもが申しあげていることは整理できるのではないかと考えている。これは今のままで図書館を博物館の傘下に置くということではなく、図書館が持っている資料の取り扱いなどをこの構想を通じて整理をしていくことによって、役割が整理されてくるということだと思う。ネットワークの中での役割ということはあるのだが、図書館の持っているライブラリの機能を博物館の傘下に置いて、別のところに中核館が生まれるというイメージはしていないので、誤解のないようお願いしたい。ただ、そのまま言うとうと吉良委員がご心配されているようなこともあろうと思うし、我々もそこは説明が不足しており、現状の課題が解決していないままにお示ししているということもある。これは図書館の内部で解決すべきことと、博物館構想の中で解決すべきことの両方を含んでいるが、そこが未整理なままでお示ししたので、そのようなご懸念を持たれたのかと思う。

【中村委員】 今のお話を伺うと、エコミュージアムの概念に近い。エコミュージアムという言葉は使わなくてよいか。

【諸星文化部長】 従来のエコミュージアムの考えをなぞって小田原で博物館を整備すべきかということも、皆さんに議論していただきたいところである。ただ、意識すべき要素としては既存の施設以外にも地域資源を新たに整備する博物館でどのように活かしていけるかというところはポイントになると思う。

【中村委員】 それは博物館の基本的な理念の中にうたった方がよい。それは大きな役割で、いわゆる展示型の博物館や市立の博物館では、今まで担ってこなかっ

た。小田原で新しい考え方で市立博物館をつくるということになるので、もし皆さんがよければ最初に明言しなければならぬと思うが。私もそこまでの認識がなく、いい市立博物館をつくるための構想という認識でいた。

【吉良委員】 新しいコンセプトでつくられる博物館というのは注目されると思う。日本の文化状況を高めることにも寄与するのではないか。志は高く持っていたきたいと思う。

【中村委員】 構想策定委員会としてはどこを基本にしていくかということも議論した方がよいかとも思うが。

【矢島委員長】 まちじゅうをつなぐという中身と、中核館というのは 2 段構えで考えていた。博物館の核となるというところと、2 (4) で観光的なことなどを含めたコアとしての役割を担うということ。図書館なども含めた大きな枠組みでということになると、現状の課題からでてくる解決の方向性ももっと大きな枠組みの提示になると思う。これは文章化したうえで、皆さんで議論する時間があつた方がよい。

【相澤副委員長】 博物館には収蔵という機能があるが、収蔵施設のみではない。そうした機能は大切だがそういう機能ばかり強調されると本末転倒になると思う。なので、図書館、文書館の機能については今後の課題として考慮してもらいたい。

言葉の使い方だが、我々も整備と建設をごちゃごちゃにしているのだが、第 1 章、第 2 章の使い方では整備ではなく、建設ではないか。整備とすると建設は 2 の次と取られてしまわないか。第 8 章では建設を使っているが。

【吉良委員】 第 8 章を解体して、建設という文言にすれば問題はないのではないか。

【矢島委員長】 第 3 章についてのご意見は以上でよろしいか。では、次に移る。

### ③答申第 4 章第 5 章の内容について

【矢島委員長】 次に第 4 章以降は項目のみを挙げている形だが、これについて事務局から説明願う。

【友部生涯学習課長】 それでは「③第 4 章・第 5 章の内容について」ご説明する。お手元の資料 3 をご覧いただきたい。こちらは次回の会議で要旨をご議論していただきたい第 4 章・第 5 章の部分になる。

各節ごとに箇条書きしてあるものは、平成 25 年度の庁内検討委員会での検討成果報告から抜き出したものである。各節ごとで必要となる視点などについて本日ご意見をいただき、それを踏まえて先ほどお示した資料 2 のような形でまとめ、議論の土台として次回の会議でお示したいと考えている。必要な視点、あるいは構成上のご意見などいただきたい。

ご説明は以上である。

- 【矢島委員長】 基本的には文章で示した方がよいと思う。
- 【友部生涯学習課長】 第1章から第5章まで文章で次回にお示しする形としたい。
- 【矢島委員長】 いまの時点で盛り込むべき視点などあればご意見いただきたい。文言については次回以降に議論することとしたい。
- 【鳥居委員】 児童生徒へのアウトリーチとあるが、これは個人単位での対応のことか、それとも学校単位か。
- 【諸星文化部長】 基本は学校、クラス単位での対応となる。
- 【吉良委員】 市民協働が調査研究のところにもあるのだが、今は教育普及に多くの市民が参画する時代になっている。担い手の育成というのはそのような意味にとって良いか。
- 【鳥居委員】 やはり文章でないとわかりづらいのではないか。
- 【中村委員】 希望する人への支援という言葉は、その他の人には支援しないように見えるので、だれにとっても機会や刺激のあるところとした方がよいのではないか。
- 【鳥居委員】 担い手というのは芸能の伝承者としてのことか。
- 【友部生涯学習課長】 そこでは教育・普及の担い手というのを想定している。
- 【石原委員】 4(4)のことでお伺いしたい。市民協働の調査研究とあるが、可能であればぜひ盛り込んでいただきたい。博物館側が企画し市民に作って見せるだけではなくて、その逆の関係もあり得るのではないか。市民が博物館のあるスペースで展示を企画して行っていくような。どこかの博物館で見たことがあるのだが、大変すばらしい取り組みであると思ったことがある。これからはそういうことも可能なのではないかと思い、申し上げた。
- 【諸星文化部長】 市民参加ということも、項目上整理が必要だと思う。私どもの考えでは整備のプロセスの中にどう市民が参画していただくかということもある。また、石原委員が言われたように展示企画に市民が参加していただくということもあるし、あるいはボランティア的な運営への参画ということもある。そこは改めて整理をさせていただきたい。
- 【矢島委員長】 では、こちらについては文章化した方が議論をしやすいというご意見が多数であるので、次回お示しいただきたい。他にあるか。
- 【諸星文化部長】 先ほど相澤副委員長が言われた建設と整備のことだが、行政で一般的に使う場合は施設にからんでの活動であるとか、ソフトとハードの両面で新たに整える場合に整備という言葉を使い、ハードの部分に特化した場合に建設という言葉を主に使って使い分けている。今回の報告の中でそこが読み取りにくかったかもしれない。また、前段と後段での使い方が未整理なところがあった。ご指摘も含めて用語については検討したい。

【矢島委員長】 それでは本日の会議はここまでとする。